ち、そして実際に運営している人たち向けの研修会を定期的に開催している。[3)]

更に、サポートセンターでは、開催を考えている地域を訪問し、ニーズアセスメントやリソースアセスメントの実施方法を伝授するなどして、プログラム開催の準備を手助けしている。アセスメント活動を始めるにあたってはまず、5名前後からなる委員会を結成するのが常である。この 5 名の中には、半数以上の障害当事者、特に支援プログラムに参加が予想されるような当事者が加わるよう配慮されている。この委員会が、アセスメントの計画、データの収集と分析、そして解釈の中心的役割を果たしていくのである。

委員会ではまず、自分たちが開催しようと考えているプログラムが「どのような人々を対象とするのか」を明確にする為の話し合いが持たれる。例えばミシガン州内のある地域では、「A 地区の精神保健サービスの利用者で、高校卒業資格または大学入学試験受験資格を持っており、学校教育を受けたいと希望している人」を対象とすることが委員会の話し合いの中で決められていった。

2）4つのアセスメント法

ニーズアセスメントを実施する方法としては、一般に以下の 4 つの方法が用採用されている。

ア）フォーカスグループによるデータ収集

イ）個別インタビューによるデータ収集

ウ）サーベイによるデータ収集

エ）コンピューターによるデータ収集

まず、ア)のフォーカスグループとは、6 人から 8 人の対象者への集団インタビューをさしているが、構成メンバーは、プログラム利用の対象となるであろう人々の考え方を包括的に示すことが出切る様な人で、多様な地域の居住者であること、マイノリティの立場を代弁できる人などを対象者の中に含むように配慮されなければいけない。例えば、A 地域のニーズアセスメントでは、利用者とその家族を含むグループや、薬物依存の問題を持つ人たちのグループ、人種的マイノリティの人たちのグループなどが調査対象の 8 つのグループに含まれていた。

次に、イ）の個別インタビューは、プログラムの利用対象となると予想される人々の、課題やニーズを包括的に明らかにしていけるような情報と視点を持っていると考えられる

人たちを対象として行われる。上記の A 地区のアセスメントでは、コミュニティカレッジや大学の関係者、自立生活センターの職員、職業リハビリセンターの職員など、障害当事者を取り巻く社会資源の関係者 8 名から個別に聞き取りを行っていた。

ウ）のサーベイは、フォーカスグループや個別インタビューでは把握することが出来ない、より多くの対象者に関して、高等教育を受けようとした時に、一般的に困難となる点などを把握する為に行われるものである。その意味では、前者二つの調査を補足するものとして実施される。具体的調査項目については、本章の最後に添付した参考資料 2 の調査票をご参照願いたい。対象となったのはクリニックなどに通院している人に加え、あまり精神保健サービスを利用していない人むけに、アウトリーチセンターのワーカーに橋渡しを依頼していた。エ）のコンピューターによるデータ収集は、地域の一般的な情報、人口構成や教育水準、プログラムの利用対象となると予想される人々の数などを知る為の手段として用いられていた。

3）結果の分析とプログラムへの反映

4 つの手法によって集められたデータは、先に述べた委員会のメンバーと SE-CAG のスタッフが合同で分析に取り組み、サマリーを作成する。このアセスメントを通して得られたもう一つの効果は、多くの利用対象者がプログラムの存在を知り、利用希望者を増やす、つまりニーズを掘り起こす結果となった点を上げることが出来る。

得られた結果の分析から明らかになったことを要約すると、多くの人たちが、高等教育を受けようとした際には、複数の課題や障害を持っていることが明らかになった。それらは、精神疾患を持っている人特有の問題や障害と考えられるものと、大学生であれば多くの人が共通に持つであろう問題や障害も存在することが明らかになった。

その結果、精神障害のある人たちが高等教育を受け、終了していく為には、次のような面で支持的環境が必要であることが示された。それらは、授業料や教科書代にかかる金銭的補助の必要性、大学やクラスに関連する情報を提供してくれるチューター（個別指導者）、偶発的に必要となるお金、大学生活について情報を提供してくれたり授業に一緒に出てくれたりする同じ学生のバディ（同伴者）、サポートグループ、コンピューター利用のサポートの 6 点であった。教育支援プログラムでは、このようにして抽出された対象者のニーズや問題に対処、応えていく為のカリキュラムを開発し、提供していくのである。例えば、

経済的課題については奨学金に関する情報の提供や申し込みの際のサポート、大学内の設備を活用したコンピューター操作のインストラクション、サポートグループの形成といった内容が、プログラムの中に取り入れられている。

4）教育支援プログラムのニーズアセスメントから学ぶこと

以上見てきたように、教育支援プログラムのニーズアセスメントの特徴は、障害当事者を含む委員会の結成と委員会によるアセスメントの計画、実施、分析、それに 4 つの手法による多面的データ収集にある。

4つの手法に関して言えば、特に真新しい手法を取り込んでいるわけではないが、それぞれの手法が、別の手法では抜け落ちてしまう側面を補足する形で使用されている点に特徴がある。また、グループインタビューや個別インタビューの対象者の選択に際しては、調査の「客観性」を重視する無作為選択に近づけるようなことはせず、自分たちのプログラム利用者と見込まれる人のニーズを把握するという調査目的に最適な選択を重視している。それに加え、「多様な人種、文化に配慮する」という多民族国家アメリカ合衆国の価値観を反映する選択を意図的にしているのである。

このように、ソーシャルワークの援助プログラムに関連する調査やアセスメントは、他の社会科学で行われる調査とはその目的とするところが違ってくる。ある具体的援助の目的・目標のために行われるため、調査対象のサンプリングでは、「科学性」や「客観性」は二次的な関心事とされるのである。特にニーズアセスメントでは、「科学性」「客観性」を第一義的に捉えることで、そのサービスによって影響を受ける人々の声をいかに拾い上げるかということを主眼にして計画されるべきであることを指摘しておきたい。

（大瀧　敦子）

---

1) 教育支援プログラムの歴史的起源やその意義については、Walsh, D. , Sharac, J.A., Danley, K.S., & Unger, K. ' The Campus Support Project: An Innovative Supported Education Program Model' Innovation & Research Vol.1 No.1 1991 pp.15-21　に詳しい記載がある。

2) ここで紹介するニーズアセスメントの内容は、筆者が 1999 年 5 月から 2000 年 4 月まで、明治学院大学より在外研究期間を得て、ミシガン大学で行った参与観察の際に収集した資料に基づいている。尚、ニーズアセスメントに関する資料は、ミシガン大学の教育支援プログラムサポートセンターのホームページより入手可能である。(http://www.ssw.umich.edu/sed)

3) サポートセンターの起源や目的、機能については、Mowbray, C.T. , Bellamy, C.D. , Megivern, D. , Szilvagyi, S. ' Raising Our Sites: Dissemination of Supported Education'　The Journal of Behavioral Health Services & Research 28:4 Nov. 2001 pp.484-491

資料1

教育支援プログラム（配付資料）

キャンパス・サポート
＜教育支援プログラム＞

明治学院大学
2003年3月8日

キャロル.M, PhD, CPRP
スティーブ.S, MA, CPRP
エローディア.A, AA, BSW candidate

なぜ，キャンパスサポート(教育支援)プログラムが必要か？

- 精神疾患は、青年期に発症する確立が高い.
- 精神疾患が最も発症しやすいのは17-25才だが，これはちょうど，高等教育や職業生活をはじめる時期と重なる.
- 15-24歳の約37%が、何らかの精神疾患をもっていると診断を受ける可能性がある.

経済への影響

- 高校生で情緒障害を持つ者：55%が卒業していない
- 調査によれば，もし精神疾患を持っていなければ，400万人以上のアメリカ在住者が，大学を卒業していただろうと見積もられている.
- 大学へ入学する青年層は増加している；人生におけるチャンスが開かれるためには、学位が必要だ.
- 精神障害によって、十分な教育を受けられず，結果として失業者の増加や，雇用状況に影響を及ぼしている.

キャンパス・サポート＜教育支援＞とは？

- 準備、手助け，サポートを提供する･･･
- 精神障害を持つ個々の人々に対して･･･
- 高等教育や職業につながるような教育を続けたいと思っている人･･･
- 精神科リハビリテーションモデルに従って行われる.

キャンパス・サポート＜教育支援＞の使命

- 精神障害を持つ人々をエンパワメントするために：

ー高等教育での目標を達成するために必要な手段を選び，手に入れる.

ー可能性を最大限に引き出し，学業での努力が実を結ぶために

キャンパスサポート＜教育支援＞サービス

- 将来計画と職業に関する自己評価
- 大学/専門学校などに関する情報提供
- 経済的援助を受けることの手助け
- 教育ローンを組むことの手助け
- ストレス・マネジメント
- 時間のマネジメント
- 教育を受ける大学の環境を調整する

キャンパスサポート<教育支援>サービス

- 障害者の権利や利用可能な資源に関する助言
- 職業リハビリテーションサービスへの橋渡し
- 障害者サービスへの橋渡し
- 大学で学ぶための技能を身につけ活用出来るようにする
- 教育を継続するためのソーシャル・サポート
- 大学で学ぶことに関する問題解決の手助け

キャンパスサポート<教育支援>サービス

- 障害者の権利や利用可能な資源に関する助言
- 職業リハビリテーションサービスへの橋渡し
- 障害者サービスへの橋渡し
- 大学で学ぶための技能を身につけ活用出来るようにする
- 教育を継続するためのソーシャル・サポート
- 大学で学ぶことに関する問題解決の手助け

ミシガン教育支援リサーチプログラムが果たしてきた役割

- "学生"となる可能性のある人を積極的に紹介
- 15ヶ月に渡って，400名を学生候補として紹介し、彼らは4学年に分かれている
- コミュニティカレッジでのサービスの紹介
- 精神障害を持つ学生の援助
  - 自分の教育上のゴールを選択する
  - これらのゴールを達成するにはどうすればよいか学ぶ
  - 教育と訓練のために利用可能なサポートについて学ぶ
- 2セメスター(28週)分の積極的なサービスの提供
- 4.5人のサービススタッフと同朋メンター
- スタッフの資格
- 予期しなかった教育費の支出に対する臨時経費に関する情報の提供

3つの支援モデル

- クラスを作って行う支援モデル
  - 週に2回，1回2.5時間
  - 教室の設置し、教師と教育アシスタントを配置する
  - カリキュラムを作成し，教科書と宿題を準備する
  - 大学で学ぶための技能を身に着けることに集中する
- グループを作って行う支援モデル
  - 週に2回，1回2.5時間
  - インフォーマルなセッティングで，相互支援に基づいて行う
  - ニーズ・アセスメントに基づいて内容を決め、各学年のニーズに合わせる
  - グループで計画表を作る
  - グループファシリテータと協力者(利用者から選ぶ)を配置する
  - ソーシャル・サポートを中心に
- 個人を対象にした支援モデル
  - Quasi-Control な状況で
  - スタッフが名前の挙がった個人とコンタクトをとる
  - "学生"のニーズを基本としたミーティングを予定する

キャンパスサポートの主要な関心事

- アクセス(入学・復学に向けて)
  - 高等教育を始めたり，再開する為の準備，手助け，サポート
  - 一般的には精神保健(福祉)機関やクラブハウスの一部として行われる
- 継続(大学生活を続ける)
  - サービスは，精神疾患を持った学生が，大学に留まり，教育を継続できるようデザインされている
  - 一般的には，教育期間中継続して，サービスが提供される
- アクセスと継続性(入学・復学と継続)

プログラムを主催する

- クラブハウスで教育支援を行う場合
  - スタッフは高校卒業後の教育に専念する(高校卒業資格取得のための教育ではない)
  - クラブハウスに教育部門を作る
  - 個別相談をする
  - クラブハウスの外で提供されるサービス
    例えば，移送サービス，キャンパス内でのクラスやグループの運営

プログラムの主催

- 大学を拠点とするモデル
  - 1つ以上の大学内に事務所を持つ
  - 精神的/心理的障害について精通しているスタッフ
  - 少なくとも、精神障害を持つ学生を対象として、1つ以上のプログラムを運営する
    - ・特別なサポートグループ
    - ・個人授業を行う
  - 一般には，大学が運営する

プログラムの主催

- 要望に応じ提供されるモデル
  - ・クラブハウスに所属していたり，運営しているものではない(だがMHで管理し，助成しているかもしれない)
  - 少なくとも1つ以上のサービスを、キャンパス内や特に場を固定せず提供する
  - キャンパスの外にサービスや事務所を持つ
  - 個別相談と他のサービスを提供する
  - 非常勤職員を一人以上雇う

ミシガンプログラムでの経験 エロディア・エイラさんの経験

- 学校へ戻ること
- クラスルームの状況
- あきらめる事，できない事
- カードを作る
- ミシガン教育支援モデルプログラムからの卒業
- 新しい仕事
- 3年後
- 現在

効果に関するまとめ

- プログラム終了後(2セメスター分)よい効果が見られた
  - 教育支援の意味やねらいを学んだ
  - プログラムへの満足
  - 楽しんでの参加
- グループモデルは，コントロール群(個人)と有意な違いがみられた
  - 教育支援の意味やねらいの理解、楽しんでの参加と満足感の点で
- 当初予測していたように、参加度の違いで次の点に変化が見られた．
  - 学校の効果，エンパワメント，生活の質，教育のためのサポート，職業リハビリテーションへの参加，大学/職業/トレーニング活動

多層モデル分析からの結果のサマリー

- グループ支援は，個人支援と比べ、有意によい効果がみられた
  - 学業や職業での活動は、グループ支援のほうが期間中活発だった
  - 社会適応の困難度は、グループ支援の方が期間中低かった
  - 全体的な生活の質は，グループ支援の方が期間中高かった
- 違いを導き出した要因の分析結果によると；
  - グループ支援は，参加の度合いとソーシャルサポートの増加によって、上記のような良い結果が得られた

MSERPから学んだ事柄

- 中心部に住む多くの精神障害者が、高等教育を受けたいと思っている
- 学生になる可能性のある人たちは、スティグマや差別、失敗に対する怖れを克服するような援助が必要だ
- 教育支援の成功のために必要なことは：
  - 入学に関する障害を乗り越えるために，普及と広報を行う
  - 普通の環境を提供するためにキャンパス内にサービスを配置する
  - 交通手段の確保，ベビーシッターの費用や教科書代といったニーズに合わせ柔軟に使えるお金
- 参加している学生は，精神科の患者から学生へとアイデンティティを再定義する
- 精神保健領域の従事者は，初めはプログラムの成功には懐疑的であるが，個々の学生の達成度を見て，次第に支持的になっていく

プログラム利用者の声

- グループサポートと励まし
  - このプログラムでは，いろいろな経験をした．クラスに来るとまるで，なつかしい家族に会ったみたいだ
  - このプログラムは，仲間を提供してくれる．今は一人ではないと感じるし，孤立していないと感じる
  - 他の人たちは「あなたは，たいした人じゃないし，これからもそうだろう」と言うが，グループのメンバーはそれを修正してくれる．個人的にサポートを持っていなくても，グループが提供してくれる．プロジェクトは，私たちの為にある
- 希望を抱くことが無くなっていたが，今は新しい希望を持っている
  - このプログラムに興味を持つまでは，ゴールを持たなかった．成長した将来像などもてなかったし，何も起きて欲しくないと思っていた．だが，卒業してみたら，あらゆる計画やたくさんのゴールのリストを作り，思いを巡らしている。

プログラム利用者の声

- 自己概念の改善：
  - 自分の問題を自分で解決できると思えるようになる…犠牲者ではなく、力を持っていると思える．
  - 自信を持つためには，教育支援プログラムが必要だった．
  - このプログラムは，自信回復に役立ったし，すごい助けになった
  - 探していた魔法の薬をもらったわけではないが，エンパワーされ，可能性を持っていると思えるようにしてくれた．

プログラム利用者の声

- ストレスの管理の仕方を教わった。クラスワークは、大学へ入る準備に役立った
- 大学入学に必要な具体的知識、経済的支援、宿題のための助言などが得られた
- やる気が増した
  - 最初の日に、何かわくわくするようなものが私の心にわき起こって来た．たぶんそれは、大学キャンパスにいたからだろう．
  - MSEPは、行動を起こすきっかけだった．今では色々なことに自分から取り組むようになった．
  - 消極的態度に基づいたものの見方を変えてくれた．

PSRと共通する理念

- 全ての人が、成長と変化の可能性を持っている．
- 人間の動機付けは、変化が可能で望ましいことだという希望を抱くところから始まる．
- 消費者は、自分の使うサービス計画に関わることで、自信を持つことが出来る。
- プログラムは、支持的な環境を整えなければならないが、それと同時に、消費者が広く地域社会に融合するのを助けなければならない．
- インフォーマルなサポートネットワーク作りとネットワーク間の関係作りは、特に利用者の回復の過程には重要である．

PSRと共通する理念

- サービスでは、日常起きる事柄を調整したり、処理することを支援しているが、それは同時に、利用者が技能や前向きさを持つことも支援している。
- 相互依存性、関係を築く方法として、共に行動し、学ぶこと、そういった相互依存性は回復には必要でした．
- 各個人は、意義のある活動に定期的に関わるべきである（“意義のある”とは、個人的価値と文化的価値の間で、一致していることを基本とする）．
- PSRサービスとは、個人にのみ関心を寄せるのではなく、個人を取り巻く環境と、個人と環境の相互作用にも関心を寄せている．

キャンパス・サポートの原則

- **サポート**：学生がサポート的と感じるサービスは、彼らが必要とする限り使用可能である．
- **ノーマライゼーション**：サービスは、スティグマを持たない方法と状況で提供される．
  - サービスは、学校生活で日々行われる事柄の中に組み込まれる形で提供される．
  - 障害を持つ人は、学生としての新しい役割を得る．それは、患者でもプログラムの利用者（クライエント）でもない．

キャンパス・サポートの原則

- **利用しやすさ**：プログラムを、現在と将来の"学生"に向けて、広く報せる.
- **交通の便**：移動手段と交通の便を改善するようなサービスを利用可能にする.
- **個別化**：サービスを、各学生個々のニーズや新たに生じたニーズに合わせて組み立てる.

キャンパス・サポートの原則

- **柔軟性**：サービスを、継続的に評価することで、学生のニーズの変化に合わせた見直しができるようになる.
- **尊厳を保つ**：サービスを、以下のような方法で提供する.
  - ―プライバシーの保持
  - ―個人の尊厳を高める
  - ―文化の多様性を尊重する

キャンパス・サポートの原則

- コーディネート：教育現場での資源と精神保健／リハビリテーションプログラムは、本人中心主義（学生の選択を尊重するなど）を取りながら、協働する。
- 地域資源を、学生の利益となるように持ち寄る.

キャンパス・サポートの原則

- 自己決定：学生は、自分でゴールを設定し、以下の過程に十分に関わる.
  - ―何を達成したいのかを決定する
  - ―ゴールへ向け、どの程度前進したか評価する
  - ―プログラムは、選択の機会を出来るだけ増やすように計画する
- 積極的な関与：学生は、プログラムのあらゆる局面、計画から実行、評価まで、積極的に参加する

キャンパス・サポートの原則

- 長所：サービスを、各個人独自の長所に基づいて計画する
  - ―プログラムは、個人の回復力を高める.
  - ―学生が必要な資源にアクセスし、環境調整を行うことを助ける
- 希望：学生は、成長している人間、つまり、発達と望ましい変化が可能な存在と位置付けられる.

キャンパス・サポートの原則

- アドボカシー：プログラムは...
  - ―学生に代わって、要望を伝える支援をする.
  - ―状況を改善するために積極的に行動する
  - ―学生が高い成果を得られるように、社会的・物理的環境を変える働きをする.

新しい試みは広がりづらい

- スタッフは、すでに彼らが行っている仕事をするために雇われていて、新しい業務を行う時間も活力もない。
- 多くの機関の管理組織は、既存のサービスのためにあるものだ。
- スタッフは、「欠点」を治すことに関心を向けがちだ;「力」を再構築するという視点を持つことが難しい。
- 誰もが「現状維持」に傾きがちだ。
- 変化は、リスクを伴う。

支援を広げるにはどうしたらよいか

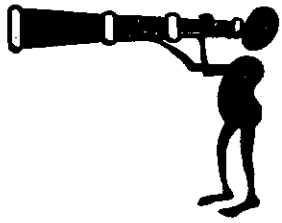
- 入念に選んだ場所に、あなたがやり易いように一つずつ積み上げていきなさい。
- 問題解決に興味のある関係者 を見つけ出す。
- 関係者を出来るだけプログラムに巻き込む
- プログラムの原則を明示するが、地域の状況にあわせる。
- 成功するためには、新しい資源をたくさん投じるより、既存の資源を大いに活用する。
- 運営者と参加者は、自分の意思で参加する。
- 最終的には自分たちで運営できるようにする。

誰がキャンパスサポートの関係者か

- コンシューマー
- 精神保健/心理社会リハビリテーション機関
- 高等教育機関(コミュニティカレッジ、4年生大学)
- 家族とアドボケイト
- 職業リハビリテーション関係者

資源のアセスメント

- 教育支援に必要な資源を見つける
- 資源の利用可能性を判断する
- 資源のコントロールとサービスの配分方法のパターンを確認する
- ユニット間の連携を確認する
- 権力と地域での影響力の位置づけを認識する
- 「可能性」に関心を向ける



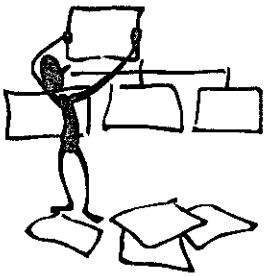
ニーズアセスメント

- どのぐらいの障害を持つ人が教育支援サービスから利益を得るか
- 資格要件はどうするべきか
- 利用資格外の基準を設けるべきか
- どこから紹介されてくるのか
- 障害を持つ人はどんなタイプの教育を受けたいと思っているのか
- 障害を持つ人の「長所」は何か
- 今後学生となる可能性のある人たちは、何をバリアと考えているか
- 彼らはどのような支援サービスを必要としているか
- システムとして必要としていることは何か

バリア:関係者は何をバリアと思っているかを見つけ、働きかける

- 学生
  - 大学で学ぶ技能の欠如、大学での過去の嫌な経験、経済的資源の必要性
- 教育システム
  - 教育担当者は、精神障害と適当な生活環境について理解している必要性がある
- 職業リハビリテーション
  - 教育内容は、職業と結びついているべきである
  - 職業リハビリテーションで支援できることは何か
- 家族
  - 家族の意識を高め、疑念や不安に取り組む必要性
- 地域精神保健
  - ケースマネージメントや紹介経路との調整

教育支援プログラム計画



- 実行 – 私たちは、どのようにして/いつ始めるのか
- 人材 – コーディネーター、チューター
- 場所 – 教室、事務所
- 経済的支援 – プログラムの財源
- 学生 – 募集法、紹介元、資格要件

SE-CAGが行っている広報活動とサービスメニュー

- グループで使うカリキュラム
- IAPSRSで出版している教育支援の本
- 教育支援の効果に関する出版物
- ニュースレター/プログラムに関する新聞記事

（偏見を減らすために）

- 教育支援の資源とリンクしたホームページ
- 会議の開催
- 教育支援のスライドショー
- 雑誌の記事
- 地方と州の会議での発表
- プログラム利用学生の体験談

資料 2

SUPPORTED EDUCATION SURVEY

1. **ARE YOU A CONSUMER OF MENTAL HEALTH SERVICES?**
   YES OR NO
   (If answer is "NO" go to question #11)

2. **DATE OF BIRTH**_____

3. **GENDER:**
   MALE/FEMALE

4. **WHAT CITY/TOWN DO YOU LIVE IN?**_____

5. **BACKGROUND:**

   [ ] African American
   [ ] Asian American
   [ ] Hispanic
   [ ] Native American
   [ ] Caucasian

6. **HIGHEST LEVEL OF SCHOOL:**

   [ ] Grades 1 - 5
   [ ] Grades 6 - 8
   [ ] Grades 9 -12
   [ ] Business/Vocational School
   [ ] Some High School
   [ ] Some College
   [ ] Bachelor's Degree
   [ ] Master's Degree

7. **WHY DID YOU STOP GOING TO SCHOOL?**_____

8. **ARE YOU CURRENTLY A STUDENT?**_____

   (If YES, please describe what school you attend, how often, what you're studying, your vocational goal._____

9. **WHAT KIND OF JOB WOULD YOU LIKE TO HAVE?**

   _____

10. **WHAT KIND OF TRAINING OR EDUCATION DO YOU NEED?**

    _____

1

11. **PLEASE EXPLAIN YOUR INTEREST IN SERVICES FOR PEOPLE WITH PSYCHIATRIC ILLNESSES, (e.g., family member, mental health worker, etc.)**

_____
_____
_____
_____

12. **WHAT KINDS OF THINGS MIGHT PREVENT PEOPLE WITH PSYCHIATRIC ILLNESSES FROM GOING TO COLLEGE?**

Please rate each:
(0) - not a problem
(1) - problem for some
(2) - problem for many
(3) - problem for most

a. Transportation _____
b. Money for tuition and books _____
c. Lack of support from family and friends _____
d. Confidence _____
e. Health problems _____
f. Stress/Mental Health problems _____
g. Substance abuse _____
h. Other (describe and rate)_____

13. **WHAT WOULD HELP PEOPLE WITH PSYCHIATRIC ILLNESSES BE ABLE TO GO TO COLLEGE AND BE SUCCESSFUL THERE?**

Please rate each:
(0) - not helpful
(1) - helpful for some
(2) - helpful for many
(3) - helpful for most

a. Support group for students_____
b. Information about colleges and classes _____
c. Help getting a GED _____
d. Help getting financial aid for tuition/books_____
e. Child care _____
f. Help with transportation _____
g. Tutors _____
h. A place to use a computer _____
i. Other (describe and rate) _____

2

14. **WHAT TIME WOULD BE BEST FOR A SUPPORT GROUP FOR STUDENTS?**

_____

15. **WHAT CONCERNS DO YOU HAVE ABOUT PEOPLE WITH PSYCHIATRIC ILLNESSES RETURNING TO COLLEGE OR VOCATIONAL SCHOOL?**

_____
_____
_____
_____

16. **HOW CAN THE EXPERIENCE OF RETURNING TO SCHOOL TO PURSUE EDUCATIONAL OR VOCATIONAL GOALS BE POSITIVE FOR PEOPLE WITH PSYCHIATRIC ILLNESSES?**

_____
_____
_____
_____

17. **OTHER COMMENTS?**

_____
_____
_____
_____

厚生労働科学研究費補助金
障害保健福祉総合研究事業

障害当事者参加型の福祉サービス運営・評価のプログラム開発に関する研究

発　行　平成15年3月31日

発行者　主任研究者　中野敏子